

126年前の大規模検疫：後藤新平の業績

今から 126 年前の 1895 年(明治 28 年)、日本は日清戦争の終結で、コレラなどの伝染病が蔓延する中国から、23 万人を超える兵士が船で帰国することになり、当時 37 歳の若さの郷土の偉人 後藤新平が、世界でも前例のない大規模な検疫事業の責任者に抜擢されました。

後藤新平は、国内3カ所に大規模な検疫所をわずか2カ月で建設し、

死の危険にさらされる検疫の担当

者たちに、後藤が自ら注意点などを講義し、また、検疫を開始する前日、後藤は検疫所を一般公開



し、近隣住民の不安の払拭に努めました。

輸送船がやってくると検査官が乗り込み、感染者等がいなか確認し、いた場合は隔離する。消毒の必要がない健康者は、入所点検所に行って、持っているものを預かってもらい、待合室に移って、浴室に行き入浴して身体を洗い、その間最新式の大型ボイラーで衣類や持ち物を熱気消毒しました。

死の危険がともなう最前線で、後藤はほとんど睡眠もとらず、陣頭指揮を取り続け、3 カ月間で 687 隻 23 万 2,346 人を検疫。

半分近い 258 隻が伝染病患者を乗せていて、コレラ感染者 369 人などを隔離し、感染拡大を阻止しました。

当時のドイツの皇帝ヴィルヘルムⅡ世は、「この方面では世界一と自信をもっていたが、この似島検疫所には負けた」と驚いたそうです。



岩手県内の新型コロナウイルス感染の状況

岩手県内の新型コロナウイルス陽性者は、2月24日現在で 553 名です。

患者の状況(令和3年2月24日15時00分)は、

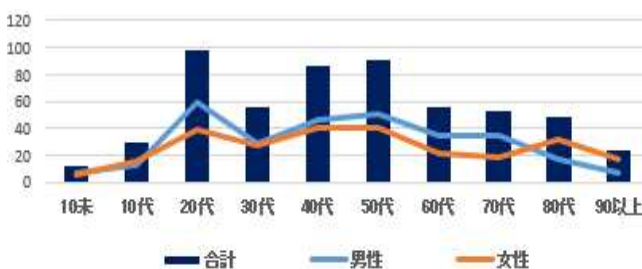
患者数 (累計)	うち入院数 (重傷者)	うち 宿泊療養中	うち死亡	うち退院 ・療養解除
553 名	13 名(0 名)	13 名	30 名	497 名

県内の月別コロナ患者数

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	3	16	4	4	167	191	111	57	

県内の年代別コロナ患者数(単位:人)

年代	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上
男性	7	13	59	29	46	50	35	35	17	7
女性	5	16	39	27	40	41	21	18	31	17
合計	12	29	98	56	86	91	56	53	48	24



チョット寄り道：和菓子の『大風呂敷』

市内の和菓子屋さんで「大風呂敷」の名を冠した和菓子を見つけました。

後藤新平は医師であり初代東京市長を務めるなど大政治家でしたが、その構想の雄大さに「大風呂敷」とはやされました。

和菓子は白玉餅と栗を小豆あん、くるみあん、抹茶あんで包んだ菓子です。



『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。

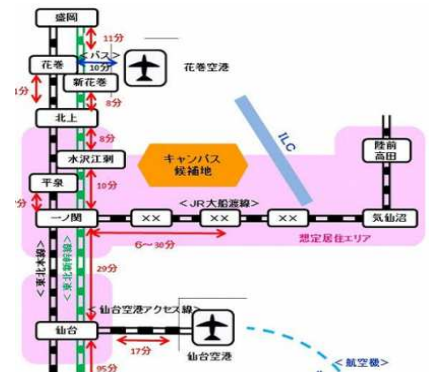
令和3年2月25日発行 奥州市医療局医師確保推進室

〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833

国際リニアコライダー

ILCとは？ 国際リニアコライダー（ILC）は、国際協力によって設計開発が推進されている次世代の直線型加速器です。

北上山地がILCに適している理由 東北の北上山地はILCをつくるうえで、とても良い条件がそろっている世界屈指の場所です。**岩手県の奥州市**から一関市にかけての北上山地の地下には、とても丈夫な「花崗岩」の岩盤が、南北に延び、東北大学等の地質調査で北上山地がILC建設の適地であることが確認されました。

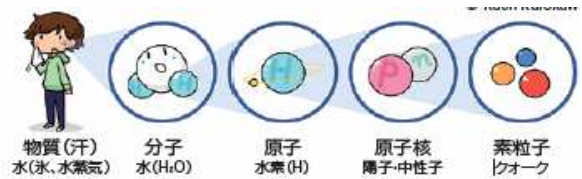


奥州市 ILC 推進連絡協議会 奥州市では、ILC の東北誘致を推進する目的で、「奥州市 ILC 推進連絡協議会」を設立し、県や関係市と連携して ILC 誘致に向けた要望・普及啓発等の取組み・小学校や中学校での ILC 出前授業などによる人材育成の取組み・多言語情報紙の発行、観光地及び伝統文化の多言語情報発信など、誘致について地元の盛り上げりを醸成し、市内外にアピールしようとする取り組みを行っています。

ILC のしくみは？ 全長数十 km の直線状の地下トンネル内で、電子と陽電子を光速に近い速度まで加速させ、正面衝突させます。すると、宇宙誕生から 1 兆分の 1 秒後の状態が作り出されます。ほんの一瞬、ビッグバン直後の状態が再現され、質量をつかさどる「ヒッグス粒子」をはじめとして、さまざまな粒子があらわれます。これらの粒子を測定することにより、どのようにして宇宙や物質が生まれたのかという、人類が長年抱いていた謎の解明に挑むことができます。また、加速器技術の応用範囲は、医療・生命科学から新材料の創出、情報・通信、計量・計測、環境・エネルギー分野まで多岐にわたります。



素粒子とは？ 物質や力を構成する最小単位、それ以上分割できない粒子のことで、電子やニュートリノなどのレプトンと呼ばれる粒子や、陽子や中性子などを構成するクォークがあります。



ILC が建設されると ILC が実現すれば、世界中から数千人の研究者とその家族が暮らすようになり、多文化が共生する国際都市が東北につくられます。私たちの身近なところに国際的な「知の拠点」が形成され、最先端の研究を見られることは、子どもたちの知的好奇心を刺激し、夢を与えることにもなるでしょう。

奥州市 総務企画部 ILC 推進室 Tel：0197-34-2123

